

ご当地 自慢

飯山市北竜湖・小菅神社編

7

北信森林管理署

◆北竜湖

北竜湖は、飯山市瑞穂に位置し野沢温泉村と接しています。この湖は、火山の爆発でできた窪地に水がたまった自然湖で面積二・四ヘクタールの湖です。江戸時代は水があふれ住民の命を奪った記録もありますが、明治の初めに堤防が築かれ、当時、「北竜池」と呼ばれていました。昭和三十六年に北竜湖観光協会の設立に合わせ、「北竜湖」と改名されました。湖の水は二十四鈴の農地を潤す農業用水として現在も利用しています。



ハート型の北竜湖

この北竜湖の周辺は、小菅部落と呼ばれ、後項に記載します小菅神社の宿坊として修験者で賑わいを見せていた室町時代

代、春になると村総出の田植えを行い、若い乙女たちも駆り出されました。田植えが終わると流水より温かい北竜湖で足を洗ったことから早乙女池とも呼ばれていました。池には大きな鯉がいて一人の早乙女に恋をしました。春が過ぎると早乙女はいなくなり、池を探して疲れはてた次の春、早乙女と再会することができました。そんな頃から恋愛成就の湖と語り継がれるようになりました。北竜湖を上空から見るとハート型になっており、湖の東の弁天島に架かる橋「早乙女橋」は恋愛成就の橋として多くの恋人が訪れています。



弁天島から望む北竜湖と妙高山

◆小菅神社

小菅神社は、白鳳年間（六四五～七一〇）に役行者により開山され、大同元年（八〇六）に坂上田村麻呂が八所権現本宮等を整備したと伝わる古社です。

当初は、馬頭観音の化身とされる小菅権現を主祭神と称して熊野・金峯山・白山・立山・山王・走湯・戸隠の七神を祀ったことから八所権現といわれる修験寺院元隆寺です。

室町時代の最盛期には上の院十六坊、中の院十院、下の院十一院の総数三十七院があり、戸隠、飯綱と並んで北信州三大修験場として広く信仰され大きな影響力を持っていました。戦国時代は上杉領となり上杉氏から庇護されていました。永禄十年の川中島の戦いで武田勢により焼失しました。その後、江戸時代に歴代飯山藩主松平氏により焼失した建物は再建されました。明治時代に入り神仏分離令により元隆寺が廃寺され小菅神社となり現在に至っています。

小菅神社の奥社本殿と宮殿は室町時代に建立され国指定の重要文化財、奥社の脇立・板絵は県宝、杉並木は県天然記念物、その他の多くの像・絵馬等が市の文化財となっています。



重要文化財（国指定）小菅神社奥社

北竜湖の上部と小菅神社の周囲は国有林です。近年、飯山市において国有林を含め小菅一带を「重要な文化的景観」として申請する動きがあります。当署としては国有林内のカシノナガキクイムシ・マツクイムシ被害木の処理等により景観の維持を行い、「重要な文化的景観」指定の一助となるよう施策をしています。



スギ並木がすばらしい小菅神社参道

北信州にお越しの節は神秘の北竜湖、歴史ある小菅神社に足を運んでみませんか。近くには映画「阿弥陀堂だより」の撮影場所となった阿弥陀堂、祈願するとお乳が出ると伝わる神戸のイチヨウ、菜の花公園など見所の多い北信州です。

